

オンラインで「会話劇」

愛教大演劇部 11分の怪談 公開

新型コロナウイルス感染症拡大で舞台芸術の発表の機会が制限されるなか、刈谷市の愛知教育大演劇部「劇団。把夢（バム）」が、創作会話劇のオンライン公演に初挑戦した。作品は「扉」を相談したい怖い話の部

「で、夏らしい約十一分間の怪談に仕上げている。

自作脚本で、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」上のチャットルームに集まった初対面の男女四人が、誰かに相談したい怖い話を一人ずつ披露する筋書き。実際にズームを通じた演技を録画して編集し、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開した。

出演する三年生の浜野真裕部長（三）は「普段の劇のような身体表現はできないので、表情や声色をいつも

以上に工夫した。舞台では届かない小さな声も伝わる点はすごく面白いと感じた」と振り返る。「一度見た後に見返すと、また違った見方が楽しめると思います」と薦めている。

コロナ禍で演劇部は今年二月末からの卒業公演や、五月の大学祭での公演の中止を余儀なくされた。ただ、団員たちは「こんな時期だからこそできる創作を」と、ズームを活用した劇を企画。稽古や打ち合わせもズームを通して重ねてきた。作品はバムのホームページやツイッターからもアクセスできる。（神谷慶）